

令和 8 年度 前原中学校区事業（前原中・雷山小・前原南小・南風小・長糸小）

生徒指導部会教職員研修 報告書

令和 8 年 7 月 2 9 日（木）9:30～11:00

講師：「ぼちぼちの会」会長 木村 素也

講演：「不登校児童生徒の理解と対応および保護者に対する支援について」

令和 8 年 7 月 2 9 日（木）9 時半から糸島市立前原中学校 2 階 会議室で研修会が実施されました。前原中校区（前原中・雷山小・前原南小・南風小・長糸小）の生徒指導部会教職員約 5 0 名の先生方が参加されました。講師は私「ぼちぼちの会」会長の木村素也でした。

講演（120 分程度）、質疑応答及び意見交流（30 分程度） 12 時終了

前半の講演の中で、①不登校の現状と課題②不登校の何が問題か？③不登校解消のための具体的な取り組み④学校で困り感を持つ子どもに必要な対策は？⑤状況に応じた学びの場とは⑥学校に通いやすい条件（具体的な対応の例）⑦保護者の支援について などについてお話ししました。

特に子どもたちは集団社会においていかにしたら「困り感」を少なくすることができるのかを学ぶ場こそ「学校」であり、自立のスキルを学ばせる場であることを強調しました。120 分ほどの限られた時間ではありましたが、先生方もメモを取るなど熱心に研修を行わ



れました。最後は質疑応答など日頃の悩みを出し合いながら助言などをさせていただきました。今後とも連携を取りながら、対応を取らせていただきたいと思います。これからもよろしくお願いします。

参加者の感想（抜粋）

生徒指導と支援について勉強になりました。今後、学校でできる支援を考えていきたいと思います。

様々な視点をもっておくこと、そして、児童、保護者を取り巻く環境についてより寄り添うようにして考える必要があるのだと思った。

「自尊感情を高める」ということを適切に捉えて今の子どもに関わっていききたいと思います。

今年度の学級は不登校児童がいないですが、今後不登校児童を持った時に実践していきたいと思いました。ありがとうございました。
今回の講話で、不登校の児童生徒にどのように対応したら良いのか考えることができた。私は、教員一年目であり、不登校の児童生徒に対してどのように対応すれば良いのかほとんどわからなかった。不登校の問題点は子どもが不利益を被ることで、担任としてその不利益が少なくなるように支援していく必要があると思った。現在のクラスにも不登校生徒が 3 人いるが、今まではほとんど対応することができていなかったのもので、少しずつ支援をしていこうと思う。
木村先生のお話を聞いて ○自分が発した言葉をまたは、発し方を聞いた子ども達はどう受け止めるかを様々な視点から考えること、子どもたちは色んな受け止め方をしていることをわかったうえで話すことが大事であること ○指導者ではなく、支援者であること ○あの子だけずるいと言ってきた子のサインをちゃんと受け止めるチャンスと捉えること ○子どもは学校に来ることの不利益や利益をちゃんとわかってること など、多様な子ども達がいる中で、どの子においとも、やはり 1 人ひとりをしっかり見てしっかり話し子どもの考えや思いを受けとめながら、よりよい方向と一緒に見つけていくなど、支援として何ができるかを考えていくことの必要性を改めて考えさせてもらいました。
「不登校の一番の問題は？」と尋ねられ、学力保障という言葉が一番中浮かんでしまいました。学校に来ないと学力が低下する、まさに「学校に来ないことで不利益を被る」という考えが自分の中にあることを実感し、この考え方を変えていかねば、という思いが強くなりました。
本人も学校も「できることはする。今できないことはしない」のスタンスが大事だと分かりました。「受け止める」とはどういうことなのか考えたいと思います。また「行政が本気になる」とは予算をつけることなんだと分かりました。
学校に行けない子供達について、新しい見方を教えていただけてとても勉強になりました。自尊感情を高めてあげることや、自分で決める力をつけることは、学校に行けない子だけでなくどんな子でも大事なことだと思うので、子供と向き合うときには、今日学んだことを活かして接したいと思いました。
不登校の根本的な視点から考えることができました。様々な子どもたちがいる中、学校として何ができるのか、今後どうすればよいかということの不登校を軸に考えましたが、不登校の子たちを本人の問題として扱うのではなくその子たちを学校として必要な施策を考える必要があると感じました。
実体験を元に様々な視点から講話をしてくださって勉強になりました。子供に話をする際に、先生や親が言わないような角度から話をするという言葉が印象的でした。自分も担任をしているので、今日の講話の内容を活かしていきたい。

不登校自体が問題ではなく、不登校によって子どもが不利益を被ることが問題であること、子どもに自己選択・自己決定をさせることが大切だということがわかりました。
不登校児童の増加の原因はコロナだと考えていたけどコロナ前から増加傾向にあったと初めて知った。 不登校児童の増加の背景には人間関係づくりが苦手、集団が苦手、母子分離、家庭環境などさまざまあると学んだ。困り感をもつ子どもに個に応じた柔軟な対応が必要だと分かり、多様な学びができる環境をつくるべきだと感じた。 子どもにとって不利益になることが不登校の最大の問題だと分かり、不登校児童が不利益を被らないように自尊感情を高めてあげる必要があると分かった。不登校は誰にでも起こりうるものであるためスクールカウンセラーの方と密な連携を行うなど対策が必要だと学んだ。
不登校児童の子供にとって、学校に来ないことが不利益にならないようにすることが大切だということ痛感した。不利益を少しでも少なくするために学校ができることを考え、個に応じた柔軟な対応をすること。そして子供のできることを、できないことを本人に自己決定させ、自尊感情を高めてあげることが大切だと改めて感じた。この講話で学んだことを今後に生かしていきたい。
今回の講話を通して、一貫して木村先生がおっしゃっていたことで「不登校は不利益だと思わせないこと」「できることは行い、自分で選択する」ことがとても心に残り、自分が教員になった理由を思い出しました。私が教員になった理由の一つとして中学生時代の友人が不登校になり、自分は何もすることができて無かったので今度は、自分の生徒たちが困っているのであれば、助けになりたいという思いもありました。しかし、本日の講話のような自己決定をさせたり、こちらの呼びかけを生徒がどう受け止めるかなどできていない関わり方がまだまだあると思いました。それで関わり方を見直して、生徒ができることを少しでも増やしていこうと思います。
本日は、研修会を開いていただき、ありがとうございました。私の学級には、昨年度から続く登校渋りのお子さんが二人います。今年度は、本人が出来ることにチャレンジをしているところです。木村先生のお話にあった様に、教育的配慮として個別対応をしている事を学級みんなが理解することが足りてなかったと感じました。これこそ、生徒指導部として探究している個々の繋がり、人間関係づくりが本学級には課題だと感じる事ができました。ご講演、ありがとうございました。
不登校に対する考え方を学ぶことができた。児童が不利益を受けないということがとても共感できた。今後の活動及び学校に伝えて生かしていく。